

令和3年度 メディア芸術連携基盤等整備推進事業
分野別強化事業

マンガ原画アーカイブセンターの実装と
所蔵館連携ネットワークの構築に向けた調査研究
実施報告書

一般財団法人横手市増田まんが美術財団

令和4年2月

目次

第1章 事業概要	3
1.1 事業の目的	3
1.2 今年度事業の目的	4
1.3 実施体制	5
1.4 実施内容	6
1.5 実施スケジュール	8
1.6 会議スケジュール	9
第2章 成果・課題・評価	10
2.1 成果	10
2.1.1 相談窓口の開設運営	10
2.1.2 所蔵館ネットワークの構築	10
2.1.3 専門人材の育成	10
2.1.4 収益事業及び支援体制構築の調査	11
2.1.5 マンガアーカイブ協議会の開催	11
2.1.6 メディア芸術データベース（ベータ版）登録に向けた調査研究	11
2.2 課題	12
2.3 評価	13
第3章 実施内容	14
3.1 実施内容	14
3.1.1 相談窓口の開設運営	14
3.1.2 所蔵館ネットワークの構築	20
3.1.3 専門人材の育成	22

目次

3.1.4 収益事業及び支援体制構築の調査	24
3.2 実施会議内容	26
3.2.1 運営協議会	26
3.2.2 各部門実施会議内容	27
付録	30
1. 「ゲンガノミカタ展」高知開催実施について	30
2. 原画アーカイブマニュアル動画作成のための取材報告書.....	41

第1章 事業概要

1.1 事業の目的

「各研究機関等におけるメディア芸術作品のアーカイブ化を支援し、所蔵情報等の整備を推進するとともに、産・学・館（官）の連携・協力により、分野・領域を横断して課題解決に取り組む」この課題を解決すべく、マンガ分野は令和2年度までの事業を発展させながら連携を強化する。具体的には、マンガの原画と刊本（雑誌・単行本）とに対象を大別し、前者に関しては、横手市増田まんが美術館を「マンガ原画アーカイブセンター」の担い手として実装しつつ、後者に関しては、熊本大学を「マンガ刊本アーカイブセンター」の将来的な担い手に想定し、前者の取り組みを先行事例として、後者の実装化に向けた調査研究、情報収集を行う。

これにより、マンガの原画と刊本のアーカイブに関する拠点及びネットワークを構築するとともに、それぞれの活動を通じて得られた情報・知見・人材を共有・公開する機会を計画的に創出し、統合的かつ体系的な「マンガのアーカイブ」の連携基盤整備の推進を目的とする。上記の目的を達成するために、以下を事業全体の柱とする。

- ① 日本のポップカルチャーの象徴であり、メディア芸術の核となるマンガの資料群（原画、刊本）の保存に関して、標準的・体系的な方法の確立に向けた調査研究を行う。全国の所蔵館と情報共有できる体制を整えるために、原画保存とその活用に関する相談窓口などを設けるとともに、所蔵館連携ネットワークの構築と強化を進める。
- ② 本事業は、将来的なメディア芸術の中核拠点形成に向けた構想の実現を視野に入れることで、マンガに限らず、メディア芸術各分野の先行モデル・ケーススタディとなることを想定し、中期的に計画している。そのため、事業を通じて得られる課題の発見や解決のための情報・知見、そして人材については、広範に共有すべく、事業実施プロセス自体を可視化・アーカイブするための調査研究を始める。
- ② メディア芸術連携基盤等整備推進事業（以下、連携事業）の趣旨を踏まえ、メディア芸術データベース（ベータ版）（以下、MADB）において許諾を得られた作品の情報や原画・刊本の存在の発信を通じ、広く国内外に向けて、マンガをはじめとするメディア芸術各分野の価値創造に関して問題提起するための調査研究を行う。これに際しては、作家本人やその関係者、出版社など、「産」との連携の在り方を丁寧に検討する。

第1章 事業概要

1.2 今年度事業の目的

- ① マンガ原画アーカイブセンターの実装と所蔵館連携に向けた調査研究
事業計画とロードマップの策定に向けた基礎調査として、連携事業における有識者検討委員のアドバイスを受けながら、以下テーマを実施する。
 - ・相談窓口の開設：窓口設置（電話、HP等）、出版社及び日本漫画家協会等の関係機関を中心とした外部への宣伝活動、相談カルテと処方箋の作成・発行、緊急保護が必要な原画資料の一時保護及びその移管作業
 - ・所蔵館ネットワークの構築：ネットワーク強化に向けた新たな参画館の確保、連絡会議の調整と開催、連携館による「原画プール」の実践研究、収蔵相談等調査依頼の受け入れと調査員の派遣
 - ・専門人材の育成：原画保存啓発用動画の編集及び公開、保存者別「原画アーカイブマニュアル」の構築研究、保存・修復等専門機関との合同研究
 - ・収益事業及び支援体制構築の調査：所蔵館の収蔵原画を活用した展示・出版等の立案、ゲンガノミカタ展の完全パッケージ化と巡回支援、将来的な自走化に向けた支援金募集・受け入れ体制の検討
 - ・「マンガアーカイブ協議会」の開催：刊本事業との合同形式によって年2回の会議を実施
 - ・「集英社マンガアートヘリテージ (SMAH)」との連携による原画保存に関する共同研究の着手

- ③ 上記の実践を通じて、所蔵館ネットワーク全体での原画収集を検討し、併せてメディア芸術データベース（ベータ版）MADBへの登録に向けた試行実験等の調査研究を行う。

第1章 事業概要

1.3 実施体制

本事業は、「マンガ原画アーカイブセンター（以下、MGAC）」を中心として全国の所蔵館・マンガ関連施設に関わる学芸員、研究者などの参画により実施された。

今年度の事業内容の詳細に応じて、「MGAC 運営協議会」、「マンガ原画アーカイブネットワーク部会」、「マンガ原画アーカイブマニュアル検討部会」、「収益・支援体制構築部会」の4部会を設置し、メンバーがそれぞれいずれかの部会に属して研究や事業の推進を図った。

表 1-1 参加メンバー一覧

役職	名前	所属
コーディネータ	大石 卓	横手市増田まんが美術館 館長
アドバイザー	吉村 和真	京都精華大学 専務理事
アドバイザー支援	イトウ ユウ	京都精華大学マンガ学部 特任准教授
メンバー	表 智之	北九州市漫画ミュージアム
	ヤマダ トモコ	明治大学米沢嘉博記念図書館
	池川 佳宏	日本マンガ学会 理事
	木村 仁	（株）街づくりまんぼう（石ノ森萬画館指定管理会社）
	永田 裕一	北栄町 観光交流課 観光戦略室
	日高 優子	湯前町教育委員会
	倉持 佳代子	京都国際マンガミュージアム

連携機関：青山剛昌ふるさと館、石ノ森萬画館、北九州市漫画ミュージアム、京都国際マンガミュージアム、明治大学米沢嘉博記念図書館、湯前町立湯前まんが美術館（那須良輔記念館）、横手市増田まんが美術館 [50音順]

第1章 事業概要

1.4 実施内容

1) 相談窓口の開設活動

マンガ原画の保存については、これまで国内に専門の窓口などは設置されておらず、原画に関わる漫画家や遺族、版權者や編集者などが、それぞれの人脈の中で、国内のマンガ関連施設を中心に保存の相談をする流れとなっていた。こうした中、いち早く体系的な原画収蔵とアーカイブに取り組んできた横手市増田まんが美術館内の実績が評価され、その知見を最大限発揮する形で、横手市増田まんが美術館内に令和2年度にMGACを設置し、国内初の原画保存相談窓口を開設した。

今年度も昨年度に引き続き、専用の電話回線及びWEBサイトを準備した上で、電話・FAX・Eメールなどによる相談を受け付けるとともに、関係のあるマンガ編集者を介して、漫画家へのMGACの広報を依頼するなど、窓口設置の認知拡大を図った。

2) 所蔵館ネットワークの構築

これまでの調査研究で蓄積した原画保存のノウハウを共有し、原画保存に取り組む強固な連携体制の構築を目的に、昨年度設置したマンガ原画アーカイブネットワーク協議会を継続して協議に当たった。メンバーは、行政運営や指定管理業者、学校法人など、産官学それぞれの運営形態を取る施設や研究者によって構成された。会議は6月と11月の2回開催し、連携機関間の情報交換を行ったほか、青山剛昌ふるさと館の再整備を検討している鳥取県北栄町との連携協議を行った。

また、今年度の新たな取り組みとして、連携館による「原画プール」の実践研究にも着手。石ノ森萬画館（宮城県石巻市）と横手市増田まんが美術館の2館で、5作家のマンガ原画約10万枚をプールした。

3) 専門人材の育成

マンガ原画アーカイブの啓発普及と、それに関わる人材の育成を目的として、連携館が持つ知見を集約した「マンガ原画アーカイブマニュアル」の改善を引き続き行っているが、更なる充実を目的に、今年度は、保存者別マニュアルの構築研究に着手した。マンガ原画アーカイブマニュアル部会を構成し、部会員による検討会議を9月と令和4年1月に開催し、今後のマニュアル作成の方向性等について協議を進めた。また、原画保存の手法や意義を広く啓発するための動画制作を昨年度に引き続き取り組んだ。漫画家及び有識者によるコメントの編集に加え、先進事例として、横手市増田まんが美術館におけるアーカイブ作業の撮影も行った。これらを編集した動画を令和2年2月にMGACのホームページ上で一般公開した。

4) 収益事業及び支援体制構築の調査

横手市増田まんが美術館がリニューアルオープン企画として令和元年5月に開催した「ゲンガノミカタ展」のパッケージ化を進めるに当たり、追加作家及び作品の解説等執筆作業に当たったほか、「ゲンガノミカタ展」をベースとした巡回展モデルパッケージ構築の実践研究として、令和3年7月から8月にかけて、高知県の高知まんがBASEにおいて「ゲンガノミカタ展」を開催した。この

第1章 事業概要

原画展では来場者からのアンケート調査も実施しており、来場者の声を今後の巡回展構築の参考として有効活用していく。

5) 「マンガアーカイブ協議会」の開催

原画、刊本両事業における課題と可能性を相互参照し、マンガ分野全体に貢献する体系的アーカイブの在り方を検討する「マンガアーカイブ協議会」を、7月と12月に開催した。

6) MADB 登録に向けた調査研究

「MADB」との連携や活用などを目指し、メディア芸術コンソーシアム JV 事務局と協力して実施。「MADB」に反映させる方法について検討を進めた。

第1章 事業概要

1.5 実施スケジュール

実施期間：令和3年4月1日～令和4年2月28日

スケジュール	4月	5月	6月	7月	8月	9月
原画・刊本共通				マンガアーカイブ協議会① 7/16 (高知)	自治体連携会議① 8/31 (WEB)	
マンガ原画アーカイブセンター(MGAC)	業務全般 アーカイブ実務研修 など					
運営協議会			運営協議会① 6/18 (WEB)			
ネットワーク会議部会	情報収集・構成団体等調整			ネットワーク会議① 7/29 (WEB)		
マニュアル検討部会	昨年作成マニュアルの検証・情報収集					アーカイブマニュアル検討会議①9/2 (WEB)
収益・支援体制構築部会	「ゲンガノミカタ展」準備		収益・支援体制構築会議① 6/18 (WEB)	ゲンガノミカタ展 @高知会場 7/17～8/31		

図1-1 部会ごとの会議日程一覧 (前半)

スケジュール	10月	11月	12月	1月	2月
原画・刊本共通	中間報告会 10/19 (WEB)		マンガアーカイブ協議会② 12/14 (熊本)	報告書とりまとめ 自治体連携会議② 1/25 (WEB)	最終報告会
マンガ原画アーカイブセンター(MGAC)	業務全般 アーカイブ実務研修 など				実績報告書提出
運営協議会	運営協議会② (横手開催) 10/29			運営協議会③ 1/18 (WEB)	
ネットワーク会議部会		ネットワーク会議② 11/5 (WEB)			
マニュアル検討部会				アーカイブマニュアル検討会議② 1/25(WEB)	
収益・支援体制構築部会				収益・支援体制構築会議② 1/24(WEB)	

図1-2 部会ごとの会議日程一覧 (後半)

1.6 会議スケジュール

1) MGAC 運営協議会

第1回 令和3年6月18日(金) 10:00~12:00

第2回 令和3年10月29日(金) 10:30~12:00

第3回 令和4年1月18日(火) 13:00~15:00

2) マンガ原画アーカイブネットワーク会議

第1回 令和3年7月29日(木) 13:00~15:00

第2回 令和3年11月5日(金) 13:00~15:00

3) マンガ原画アーカイブマニュアル検討会議

第1回 令和3年9月2日(木) 13:00~15:00

第2回 令和4年1月25日(火) 10:00~12:00

4) 収益・支援体制構築会議

第1回 令和3年6月18日(金) 17:00~19:00

第2回 令和4年1月24日(火) 19:00~21:00

5) マンガアーカイブ協議会

第1回 令和3年7月16日(金) 10:00~12:00

第2回 令和3年12月14日(火) 15:00~17:00

第2章 成果・課題・評価

2.1 成果

2.1.1 相談窓口の開設運営

昨年度窓口を開設した結果、計21件の調査依頼相談を受けたが、その全てが処理保留及び継続調査などの未解決案件であったため、今年度は前年度の相談をより解決へ近づける対応から活動をスタートさせた。相談処理の最終段階においては、原画の処遇について対面での聞き取りが必須であるとの認識の下で対応に当たったが、今年度もコロナ禍の影響により移動制限がかかる中、解決に向け調整を図った。また、MGACの認知度拡大のため、専用サイトとなるHPに新たに活動の履歴を掲載する調整を図ったほか、緊急事態宣言が解除となった10月には、懸案であった出版社に対する相談窓口の解説の説明を2社4編集部に対して実施した。

以上の結果、今年度は新たに10件の相談を受け付け、昨年度からの継続相談と合わせ、計31件の相談を受けた。内訳としては、直接の聞き取り調査の実施が9件、電話やメール等を介しての調査が12件、継続及び今後の調査依頼相談が10件となっているが、中でも次項でも触れる「原画プール」により約85,000枚の原画を保存できた実績は大きな成果と言える。プール事業という受皿ができた結果、原画保管に対する即効性や柔軟性が担保され、相手側の安心感も増した印象を受けたため、引き続き相談案件に対する速やかな解決に向けた取り組みを強化していきたい。

2.1.2 所蔵館ネットワークの構築

本年度もコロナ禍の影響により対面での会議は開催できなかったが、オンラインによる「マンガ原画ネットワーク会議」を2回（6月と11月）実施し、連携機関同士での現状課題を共有した。また、昨年度から調整を続けてきた連携館との調整による「原画プール」については、横手市増田まんが美術館で約30,000枚を、石ノ森萬画館で約55,000枚の原画をプールした。今後もネットワーク会議を通じたメンバーシップを元に、連携を強化しながら保存体制の拡充を図っていく。

また、MGACの原画相談窓口業務の一環として、11月に鳥取県北栄町が進める青山剛昌ふるさと館の再整備に対し、横手市増田まんが美術財団のスタッフをアドバイザーとして派遣したが、こうした取り組みもネットワーク会議の連携がもたらした効果と捉え、更なる拡充につなげていく。

2.1.3 専門人材の育成

これまでの事業で整備してきた「マンガ原画アーカイブマニュアル」の更なる充実を目的に、今年度は、保存者別マニュアルの構築研究に着手した。具体的には、マンガ原画アーカイブマニュアル部会を構成し、部会員による検討会議を9月と令和4年1月に実施し、今後のマニュアル作成の方向性等について協議を進めるとともに、原画保存の手法や意義を広く啓発するための動画製作昨年度に引き続き取り組んだ。このうち、動画制作については、漫画家及び有識者によるコメントの編集に加え、先進事例として、横手市増田まんが美術館におけるアーカイブ作業の撮影も行い、これらを編集した動画を令和2年2月にMGACのホームページ上で一般公開した。また、保存者別マニュアルの構築研究については、集英社が進める「集英社マンガアートヘリテージ (SMAH)」での原画保

第2章 成果・課題・評価

存手法の取材や個人で原画保存に取り組んでいる漫画家への取材を行い、様々な現場で実際に行われている保存方法を知る機会を得た。こうした取材で得た知見を来年度以降に作成する保存者別マニュアルの仕様に反映していく。

2.1.4 収益事業及び支援体制構築の調査

恒久的な MGAC の運営を目指す上で欠かせない収益支援体制の構築について、昨年度に引き続き、横手市増田まんが美術館がリニューアルオープン企画として令和元年 5 月に開催した「ゲンガノミカタ展」のパッケージ化の調整に当たった。具体的には、収益支援体制構築部会を構成し、部会員による検討会議を 6 月と令和 4 年 1 月に実施、追加作家及び作品の解説等の執筆作業に当たったほか、「ゲンガノミカタ展」をベースとした巡回展モデルパッケージ構築の実践研究として、令和 3 年 7 月から 8 月にかけて、高知県の高知まんが BASE において「ゲンガノミカタ展」を開催。併せて、1 月には自治体連携会議において、上記「ゲンガノミカタ展」の事例発表を行い、更なる開催検討の広報、周知に努めた。このほか、販売をベースとした「ゲンガノミカタ展」の解説テキストの仕様検討を行ったほか、グッズ展開やパッケージの巡回構築についても、より具体的な目標を設定するための議論を交わした。

2.1.5 マンガアーカイブ協議会の開催

原画、刊本両事業の合同会議として昨年度立ち上げた「マンガアーカイブ協議会」を、2 回（7 月と 12 月）、いずれも対面の会議形式で開催。このうち、第 1 回会議（7 月 15 日）については、高知まんが BASE（高知県）を会場に、原画分野の主催により開催した。会議では、マンガ分野の両輪としての「原画」と「刊本」の一体となった取り組みの重要性や必要性が議論され、その具体的な取り組みを来年度以降の計画に反映させる方向性が合意された。具体的には、「ゲンガノミカタ展」の展示資料としての副本提供や、刊本アーカイブセンター（仮）の設立に向けた情報交換、マンガ分野でプールのしている原画の整理作業における副本提供など、それぞれの強みを生かしたより実践的な取り組みを展開していく計画とした。

2.1.6 メディア芸術データベース（ベータ版）登録に向けた調査研究

「MADB」との連携や活用については、横手市増田まんが美術館がこれまで蓄積してきた原画アーカイブのメタデータの提供及び掲載を前提として、メディア芸術コンソーシアム JV 事務局と協力し、「MADB」に反映させる方法について検討を進めた

2.2. 課題

1) 相談窓口の開設運営

原画保存を進める上で最も重要視している「対面での懇切丁寧な説明と信頼関係の構築」については、今年度もコロナ禍の影響により満足した動きが取れなかった。オンライン化が進んでいるとは言え、大切な原画の保管を対面での説明をベースとした契約などの締結なしに動かすのは容易ではなく、1日も早いコロナ禍の終息を願うばかりである。また、これはMGAC開設の周知にも言える状況で、来年度以降も出版社や編集者、プロダクション、漫画家団体などへの保存相談の受付を直接説明することに注力すべき状況にある。

一方、今年度から着手したプール事業により緊急性に対応できた事案もあり、一定の成果は得られたが、プールした原画の整理における予算は確保されておらず、来年度以降、新たな事業としてその構築が急務となっている。

2) 所蔵館ネットワークの構築

今年度、メンバーシップの更なる拡充に向けた具体的な取り組みとして、会則を設ける議論を重ねたが、より将来を見据えた柔軟なものであるべきとの結論に至り、その施行を先送りしたところだが、今後の参画を検討している団体に対しても、どのような組織にどのような立場で参画できるのか、お互いに共有した上でもその設置が急がれる案件であると認識している現状を踏まえて、今後も議論を重ね、早急に対処したい。

3) 専門人材の育成

保存者別マニュアルの構築を検討する上で、それぞれの保存現場のニーズに対応した内容を目指す上では、様々な現場の声を拾い上げる必要があるが、現状ではその情報量が足りていないと感じている。また、仕様に関しても、別様にするのか、冊子にするのかなど検討課題は多く、来年度には結論を見いだしたい。また、人材育成としてのアーカイブの実践研修もコロナ禍の影響により取り組めていないため、今後も事業構築に向け準備を進める必要がある。

4) 収益事業及び支援体制構築の調査

「ゲンガノミカタ展」のパッケージ構築の実践として、今年度、高知県高知まんがBASEにて企画展を開催できたのは大きな進歩だったが、収益構築の立場で考えた際、開催権料がどうしても一定金額以上になるため、容易に開催できる状況とはなっていない。より幅広く巡回先を見つけるためには、パッケージの内容はもとより、その現場構築方法についても工夫が必要。さらには、パッケージ以外の収益（グッズ等）の付帯も必須であることから、権利処理、分配等の問題解決含め、更なる議論を展開すべき状況となっている。

5) 「マンガアーカイブ協議会」の開催

センター設置を目指す刊本事業に的確なアドバイス及び情報提供ができるよう、先導している原

第2章 成果・課題・評価

画分野としての役割を果たす必要がある。加えて、マンガ分野の両輪としての原画と刊本の共同事業展開を一早く構築する必要もあり、更なる連携強化が求められている。

6) メディア芸術データベース（ベータ版）登録に向けた調査研究

これまで蓄積してきた原画保存のメタデータを、データベースに登録するための調査研究を更に進めていく必要がある。

2.3. 評価

総括的に言えば、MGAC が掲げた上記六つの事業は、当初の計画に基づきおおむね着実に進捗していると確認された。コロナ禍の影響も部分的にはあったが、令和3年度は戦後マンガ史に多大な足跡を遺した漫画家の訃報が相次ぎ、マンガのアーカイブに対する関係者や世間の関心も少なからず集まった結果、MGAC にかかる期待や緊急性が、一層高まる中での活動となった。

「1) 相談窓口の開設」によって、文字どおり、マンガ原画のアーカイブに関する相談や依頼が複数件寄せられ、一時的な保管場所となる原画プールの増設及び確保が求められる中、石ノ森萬画館の多大な協力を得られたことは、「2) 所蔵館ネットワークの構築」の具体的成果である。また、鳥取県北栄町の青山剛昌ふるさと館へのアドバイザー派遣、北海道マンガミュージアム構想への協力など、MGAC の役割は全国的な求心力を高めており、今後のネットワークの拡大も大いに期待できる。

そうした状況下、マンガ原画アーカイブのマニュアル作成をベースに「3) 専門人材の育成」も計画的に進捗し、さらに「4) 収益事業及び支援体制構築の調査」では、まんが王国土佐の拠点として2020年に開館したばかりの高知まんがBASEにおいて、「ゲンガノミカタ展」をモデルパッケージ化するなど、実践的なケーススタディにも着手している。今後は、これらの所蔵館ネットワークや専門人材、パッケージ展などを活用し、MGAC の安定的運営に資する支援体制をどこまで構築できるかが、本格的に問われることになるだろう。

そのためにも、「5) 「マンガアーカイブ協議会」の開催を通じた原画事業と刊本事業との連携強化が一層求められる。実際、上記の「ゲンガノミカタ展」においても、各展示会場に関連する作品・作家の単行本や雑誌が配架されていた結果、展示内容の理解促進が図られ、総合的・体系的な「マンガのアーカイブ」の活用事例とその効果の可視化が重要な成果となった。

今後こうした事例を積み上げる上で、本協議会を更に計画的・安定的に運営するとともに、「6) MADB 登録に向けた調査研究」を継続することで、原画・刊本の連携を一層強化し、MGAC という先駆的機能を有する事業として、メディア芸術領域全体の連携推進をリードしてほしい。

第3章 実施内容

3.1 実施内容

3.1.1 相談窓口の開設運営

【体制】

マンガ原画アーカイブセンター（MGAC）※横手市増田まんが美術館内

- ・センター長 大石 卓（横手市増田まんが美術館館長）
- ・主任スタッフ 安田 一平（横手市増田まんが美術財団）
- ・スタッフ 佐藤 優子（横手市増田まんが美術財団）
- ・スタッフ 川越 菜々子（横手市増田まんが美術財団）

①相談窓口の開設



マンガ原画アーカイブセンターロゴ



センターの執務スペース



美術館内に設置されたマンガ原画アーカイブセンター（1F：マンガカフェ入口隣）

図3-1 美術館内に設置されたMGAC事務所

第3章 実施内容

The image shows a screenshot of the MGAC (Manga Genji Archive Center) website. At the top, there is a navigation menu with links for Home, Manga Original Art Archive Center, Operation Association, Manga Original Art Archive Network Meeting, Revenue Support System Construction Meeting, and Manga Original Art Archive Manual Review Meeting. The MGAC logo is prominently displayed in the center, with the letters M, G, A, and C in different colored blocks. Below the logo, a speech bubble contains the text 'マンガ原画保存の相談お受けします' (We accept consultation for manga original art preservation). A paragraph of text explains that MGAC is the only domestic consultation window for manga original art preservation, offering advice and support to manga artists and publishers. A red banner at the bottom of the page contains a disclaimer: '※原画保存にお悩みの方の相談を受け付けておりますが、「原画の保管（お預かり等）」を保证するものではありませんので、予めご了承ください。' (We accept consultation for those who are troubled by original art preservation, but we do not guarantee the safekeeping (storage, etc.) of original art, so please be aware of this in advance.) Below the disclaimer, there is a contact information section featuring an illustration of a woman and the following details: '相談受付時間 10:00-17:00 (平日限定)' (Consultation reception time 10:00-17:00 (weekday limited)), '※毎週土・日及び祝祭日、受付時間外のご相談はメールにてお願いいたします。' (※Please email us for consultation on weekends, holidays, and outside of reception hours.), '0182-23-6915' (phone number), '0182-23-6916' (fax number), and 'お問合せフォーム' (inquiry form).

図 3-2 相談窓口開設のお知らせ (HP 掲載)

Business Summary

▶マンガ原画アーカイブセンターについて

業務内容

- ◆原画相談窓口業務
- ◆関連施設ネットワーク化
- ◆人材育成プログラム

業務の流れ

▶ヒアリング

このようなお悩みはありませんか？

マンガ家・遺族等



- 原画を預けたい、寄贈したい…
- 自分で原画を保存するには…
- 自分の原画をアーカイブしてほしい…
- 国内外で企画展を開催したい…
- etc…

施設・出版社（編集者）



- 原画の管理方法を知りたい…
- アーカイブの方法を知りたい…
- 原画アーカイブの研修会を受講したい…
- etc…

相談

窓口

マンガ原画アーカイブセンター
(一財) 横手市増田まんが美術財団

▶カルテの作成

現在の原画の状態、保管状況、活用の意志等、相談内容を記載したカルテを作成。



図 3-3 業務内容の紹介① (HP 掲載)

第3章 実施内容

▶希望にあった解決策を協議

各関連施設や専門機関など、アーカイブセンターのネットワークを通じて相談内容や意向に沿った解決策を協議します。



▶全国関連施設のネットワーク

このほか、全国のマンガ関連施設や専門家とのネットワークを構築し、オールジャパンでの原画保存に取り組んでいます。



▶解決法の紹介

- 関係機関への紹介・解説（原画の保存・寄贈・譲渡・売却・企画展ほか）
- アーカイブ方法指導（ほか）
- 原画の一時保管など



紹介・助成



アーカイブ方法指導



原画の一時保管

図3-4 業務内容の紹介②（HP掲載）

▶ お問合せフォーム

下記の注意事項をよくお読みの上、お問合せください。

※注意事項

原画保存にお悩みの方の相談を受け付けておりますが、「原画の保管（お預かり等）」を保証するものではありませんので、予めご了承ください。

承認して表示

【お名前】 必須	<input type="text"/>
【住所】 必須	<input type="text" value="都道府県まででも可"/>
【メールアドレス】 必須	<input type="text"/>
【連絡先】	<input type="text"/>
【相談内容】 必須	<input type="text"/>
【その他】 お電話での連絡希望時間等ございましたらご記入ください	<input type="text"/>

入力内容を確認の上、よろしければ「送信する」ボタンを押してください。

送信する

図 3-5 相談に関するお問合せフォーム（HP 掲載）

【相談依頼内容】

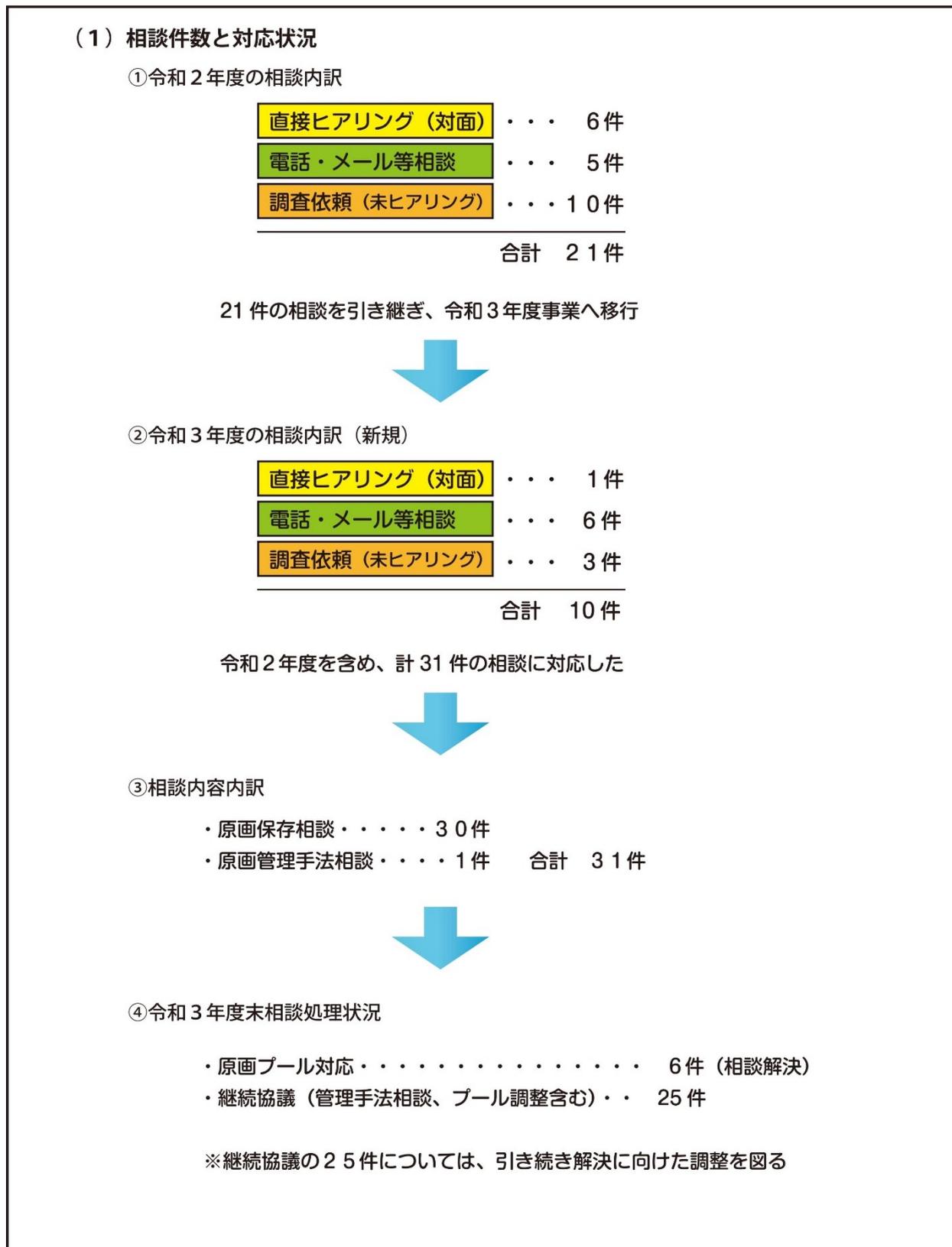


図3-6 今年度相談件数と対応状況

第3章 実施内容

3.1.2 所蔵館ネットワークの構築

主なマンガ関連施設におけるマンガ原画収蔵の状況

(M G A C 調査)

施設名	横手市増田まんが美術館	京都国際マンガミュージアム	北九州市漫画ミュージアム
施設外観			
収蔵枚数	約45万枚	確認作業中	約10万枚
現在の収蔵状況 収蔵に対する考え方	地元出身漫画家を中心に、関係性のある漫画家や編集者からの紹介など、市の公費を投じてアーカイブする作家を厳選しながら積極的な収蔵を展開してきた。その結果、令和元年度末で40万点を超える原画を収蔵している。	刊本（雑誌・単行本）のアーカイブを中心とした施設であり、さらに収蔵スペースの問題も有り、現在、大規模な原画収蔵の積極的な取り組みは行っていない。ただし数名の作家に関しては、実験的に、ほぼすべての原画を受け入れている。今年度、原画収蔵場所の大規模な整理を実施。整理した収蔵原画の活用について取り組みを進めている。	北九州ゆかりの漫画家の業績の顕彰を目的に開設。ゆかり作家の内、本人や家族による管理が難しいケースを優先して原画を受け入れ、現在約10万枚を収蔵中。整頓の進捗報告として、今年度は畑中純展と神江里見展を開催した。今後も受け入れを続けるが、北九州ゆかりの作家・作品を原則としている。
今後の方針 懸案事項	館のキャパシティである70万点に対し、既に40万点を超える原画が収蔵されており、スペース確保の議論を進める必要がある状態。	今後の収蔵計画・予定は無し。 受け入れた原画に関して、整理は進めているが、データベースの構築や最終的な収蔵場所の確保の問題は解決していない。	ムロタニ・ツネ象など、収蔵に向けての調整案件を複数進めているが、収蔵庫設計時の試算キャパシティは越えており、整頓方法の工夫や収蔵スペースの拡充など課題は多い。収蔵・整頓人員の慢性的な不足も根深い問題。
施設名	明治大学米沢嘉博記念図書館	石ノ森萬画館	
施設外観			
収蔵枚数	1400枚	55,000枚	
現在の収蔵状況 収蔵に対する考え方	図書館ではあるが鈴木光明の寄贈原画1400枚や、高橋しん作画資料などを有す。1階が展示スペースであり、マンガの原画展を頻繁に行っていることから、原画の整理・保管作業等の協力を行っている（三原順など）。図書館としての蔵書数約14万冊、アニメ原画収蔵約50箱分。	2011年の東日本大震災により被災するまでは、石ノ森章太郎の原画約9万点を保管し、アーカイブ作業を行っていた。震災後、大半を返却したことから、保管スペースが空いており、原画ブルー事業に対応できた。	
今後の方針	収蔵スペースの関係もあり、現在マンガ原画の収蔵計画は無し。収蔵済み原画の整理を進める予定。	今後、関係性のある作品の原画保管の予定もあるが、アーカイブセンター事業との連携に更に協力していく考え。	

図 3-7 保存レベルの現状一覧表

第3章 実施内容

表 3-1 会員資格の設定

マンガ原画アーカイブネットワーク協議会 会員資格の設定

グループ	会員資格の設定	該当施設
1	マンガ原画アーカイブセンター運営協議会に籍を置く施設	<ul style="list-style-type: none"> ・横手市増田まんが美術館 ・京都国際マンガミュージアム ・北九州市漫画ミュージアム ・明治大学米沢嘉博記念図書館
2	マンガ原画アーカイブネットワーク協議会に籍を置く施設	<ul style="list-style-type: none"> ・石ノ森萬画館 ・青山剛昌ふるさと館 ・湯前まんが美術館（那須良輔記念館）
3	ほか、マンガ関連施設及び原画収蔵可能な機能を有する施設	<ul style="list-style-type: none"> ・全国マンガ関連施設 ・美術館、博物館等の公共施設など

【アドバイザーの実施】

鳥取県北栄町が進める青山剛昌ふるさと館の再整備、これに伴うアドバイザー派遣の相談がMGACに寄せられ、本事業のアドバイザー支援及び京都精華大学特任准教授でもあるイトウユウ氏と横手市増田まんが美術館長の大石卓氏がアドバイザーとして派遣した。その業務内容は、再整備を見据えた青山剛昌ふるさと館の展示及び収蔵の現状についてのアドバイスであり、イトウ氏が展示部門を、大石氏が資料保存部門を担当し、それぞれの立場から評価点や改善点等の指導・助言に当たった。

青山剛昌ふるさと館からは、再整備の進行と並行して来年度以降も引き続きアドバイザーを派遣してほしいと要望を寄せられており、MGACとしても連携館との関係性強化や原画保存施設の拡充を目指し、引き続き対応に当たりたい。

第3章 実施内容

【原画プールの状況】

表 3-2 原画プール対応状況の詳細

No.	作家名	代表作	相談者	相談区分	相談手法	保管希望先	保管(プール)先	原画数
1	山田 芳裕	へうげもの	編集者	保存	対面	指定なし	石ノ森萬画館	約14,000枚
2	なきぼくろ	バトルスタディーズ	編集者	保存	対面	指定なし	石ノ森萬画館	約4,000枚
3	川本コオ	鯨魂	家族(長女)	保存	メール・電話	指定なし	石ノ森萬画館	約15,000枚
4	東條仁	CUFFS ～傷だらけの地図～	編集者	保存	メール 電話	指定なし	石ノ森萬画館	約12,000枚
5	山崎大紀	千代の富士物語	編集者	保存	メール・電話	指定なし	石ノ森萬画館	約10,000枚
6	花村えい子	霧のなかの少女	家族(長女)	保存	メール・電話 対面	横手市増田 まんが美術館	横手市増田 まんが美術館	約30,000枚
合計								約85,000枚

・石ノ森萬画館でのプール原画数 約55,000枚

・横手市増田まんが美術館でのプール 約30,000枚

原画プールにあたっては、原画移管前にMGACと権利者との間で覚書を交わし、今後の原画の処遇等についての認識も共有した上で対処した。

3.1.3 専門人材の育成

【マンガ原画アーカイブマニュアルについて】

漫画家やプロダクション等、保存者に合った原画の保存方法の研究とマニュアル化を基本方針として、部会員が取材に当たった。今年度は集英社が進めるブロックチェーンによる複製原画販売「SMAH（集英社マンガアートヘリテージ）」への取材を中心に活動を展開。「SMAH」での原画整理は、これまでの文化庁事業におけるマンガ原画保存事業の積み重ねを参照し応用した例であるため、当事業とも関係性が強い取り組みとなっている。

取材を通し、集英社の独自手法や出版社ならではのきめ細かな原画保存への対処が施された「ハイエンド」な保存管理が進められている現状を確認できたため、MGACとしても学ぶべき点も多く、今後の保存者別マニュアルの作成にも大いに反映していきたい。

※詳しい取材レポートについては、付録を参照。

第3章 実施内容

【動画の制作について】

昨年度の事業で取材及び撮影が済んでいた里中満智子氏と小野慎之介氏の動画コメント編集及び横手市増田まんが美術館での原画保存手法の撮影及び編集を行った。

なお、編集動画については、MGACのホームページに掲載するほか、文化庁カレントコンテンツサイトへの掲載も含め、多角的に取り組み、原画保存事業の啓発に努めていく。

<p>・動画内容</p>	<p>①再生時間</p>	<p>約15分</p>
	<p>②構成</p>	<p>インタビュー（里中満智子氏） インタビュー（小野慎之介氏） 横手市増田まんが美術館原画アーカイブ作業風景</p>



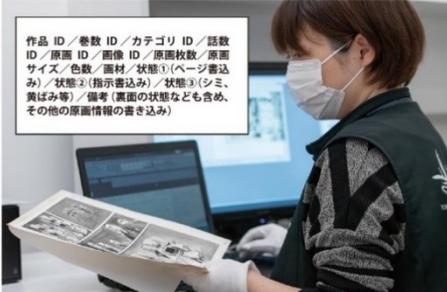
里中満智子氏（公益社団法人日本漫画家協会理事）



小野慎之介氏（東洋美術学校保存修復課研究教職員）

・横手市増田まんが美術館での原画アーカイブ作業





作品 ID / 巻数 ID / カテゴリ ID / 話数 ID / 原画 ID / 画像 ID / 原画枚数 / 原画サイズ / 色数 / 画材 / 状態①(ページ書込み) / 状態②(指示書込み) / 状態③(シミ、黄ばみ等) / 備考(裏面の状態なども含め、その他の原画情報の書き込み)





図 3-8 令和3年度版マンガ原画アーカイブマニュアル動画の内容について

3.1.4 収益事業及び支援体制構築の調査

「ゲンガノミカタ展」のパッケージ構築を目指し、高知まんが BASE において巡回展を開催した。
※詳しい取り組み内容については、付録を参照。

①「高知まんがBASE」にて「ゲンガノミカタ展」を開催

「ゲンガノミカタ展」のパッケージ化と巡回構築を目指し、その試験的な先行企画として、「高知まんがBASE」にて『ゲンガノミカタ展』を7月17日から8月31日の会期で開催した。



②開催に関するデータ

「ゲンガノミカタ展」高知会場_入場者データ

- 入場者数 (会期:令和3年7月17日(土)～8月31日(火))※無料企画
- 7月:451人
- 8月:868人
- 計:1,319人

■アンケート結果 (一部抜粋)

- ・アナログ原稿を久しぶりに見て、作家の方々の素敵な線を見ることができて良かったです。解説をして頂きながら見れたのでさらに理解が深まって楽しむ事ができました。ありがとうございました。(30代女性)
- ・効果トーンなどについては、名前だけ知っていたし、よく、切って貼る作業の部分だけの動画を見たことがあったので、実際のプロの人のトーンを貼られた「ゲンガ」を見れて良かった。(中学生女子)
- ・非常に面白く見ました。原画の保存は矢口先生が生前力を入れていたということを知っていましたので、原画は国内より海外の方で購入等の人気がある事も聞いたことがあり、原画の大切さが良く分かりました。(50代男性)
- ・普段、見る事の少ないプロの漫画家の原画を見る事ができて楽しかった。説明も分かりやすく、原画を残し保存することで、日本の漫画が「文化」として大切にされていければ良いなと思った。(10代女性)
- ・やはり原画という状態でマンガ原稿をみれるのはとても貴重だと思った。コミックスではとてもきれいに見える一ページも原画だと、やや荒々しく、しかし、目に見える熱量の具現化といったような、そんなインパクトをうけました。(20代男性)
- ・1～10のキャプションが勉強になりました。小規模かつ、閲覧スペースを活用した展示でこんなにも面白いテーマに触れられるとは、嬉しかったです。開催ありがとうございます。(20代女性)



図3-9 「ゲンガノミカタ展」高知まんがBASEでの開催概要

第3章 実施内容

表3-3 ゲンガノミカタ展の構築内容と執筆者一覧

ゲンガノミカタ展_展示構築者等リスト

【全体コーディネーター】=イトウユウ、表智之

①イントロダクション

区分	執筆者	英訳者	備考
あいさつ（趣旨及展示説明）	イトウユウ	カーロヴィチュ・ダルマ	

②第1部（ゲンガノミカタ）

区分	執筆者	英訳者	備考
ミカタの①～⑩	表智之	カーロヴィチュ・ダルマ	
観方の①	原画と印刷、どう違う？	鑑賞のポイントと原画選定	
観方の②	マンガの「原稿用紙」とは？	鑑賞のポイントと原画選定	
観方の③	描線から感じるマンガ家の息吹	鑑賞のポイントと原画選定	
観方の④	欄外に見る「マンガのゲンバ」	鑑賞のポイントと原画選定	
観方の⑤	手仕事が生み出す様々な効果	鑑賞のポイントと原画選定	
観方の⑥	スクリーントーンは「貼るだけ」じゃない！	鑑賞のポイントと原画選定	
観方の⑦	ホワイトでつけるアクセント	鑑賞のポイントと原画選定	
観方の⑧	この「切り貼り」は何のため？	鑑賞のポイントと原画選定	
観方の⑨	なぜか裏側にも絵が？	鑑賞のポイントと原画選定	
観方の⑩	うつろいゆく原画たち	鑑賞のポイントと原画選定	

③第2部（挑戦と革新性）

作家名	ジャンル	執筆者	英訳者	備考
矢口高雄	方言マンガ	表智之	カーロヴィチュ・ダルマ	原画、展示マンガ含
東村アキコ	エッセイマンガ	川原和子		原画、展示マンガ含
高橋よしひろ	犬マンガ	日高利泰		原画、展示マンガ含
小島剛夕	時代劇	雑賀忠宏		原画、展示マンガ含
土山しげる	食マンガ	イトウユウ		原画、展示マンガ含
能條純一	勝負師マンガ	斎藤宣彦		原画、展示マンガ含
倉田よしみ	職人マンガ	吉村和真		原画、展示マンガ含
さいとう・たかを	劇画	伊藤剛		原画、展示マンガ含
浦沢直樹	※執筆者と協議	宮本大人		原画、展示マンガ含

第3章 実施内容

3.2 実施会議内容

3.2.1 運営協議会

第1回 令和3年6月18日（金） 15:00～17:00 WEB会議（Zoomにて開催）

- ①令和3年度マンガ原画事業における事業活動について
 - ・全体事業運営の共有
- ②MGAC運営に関するの情報共有及び協議
 - ・相談件数及び内容の確認
 - ・プール事業について
- ③第2回MGAC運営協議会に向けての内容協議・日程調整

参加者：大石卓、池川佳宏、イトウユウ、表智之、ヤマダトモコ、吉村和真

文化庁：堀内威志、椎名ゆかり、吉光紗綾子、中西睦美、牛嶋興平

事務局：高橋知之、後藤流音、酒井淳一郎、井上和子、桜井陽子、藤本真之介、佐原一江

第2回 令和3年10月29日（金）10:30～12:00 横手市増田まんが美術館（2F:WSルーム）

- ①令和3年度マンガ原画事業における事業活動について
 - ・全体事業運営の共有・各部会の進捗確認
 - ・10月19日開催、中間報告会発表内容について
 - ・収益支援体制構築部会：ゲンガノミカタ展再構築についての確認
追加執筆について情報共有など
 - ・マニュアル部会：現在のアーカイブマニュアル進捗状況、今後の予定
マニュアル動画タイトル、構成、追加インタビューについてなど
 - ・ネットワーク会議：次回ネットワーク会議開催について（11月5日開催）
- ②原画プールについて
 - ・原画プール作業実施報告
- ③マンガ原画アーカイブセンター運営協議会規約について
- ④第3回MGAC運営協議会に向けての内容協議・日程調整

参加者：大石卓、池川佳宏、イトウユウ、表智之、ヤマダトモコ*、吉村和真

文化庁：椎名ゆかり*

事務局：高橋知之*、藤本真之介、佐原一江*

*印付きはZoomでの会議参加

第3回 令和4年1月18日（火）13:00～15:00 WEB会議（Zoomにて開催）

- ①令和3年度マンガ原画事業における事業活動について
 - ・全体事業運営の共有・各部会の進捗確認

第3章 実施内容

- ・各部会の取組状況報告
- ・現状の課題と対応について
- ②原画プールについて
 - ・原画プール作業実施報告
 - ・相談件数及び内容の状況報告
- ③マンガ原画アーカイブセンター運営協議会規約について
- ④今後の活動方針について
 - ・マンガ原画アーカイブセンターの活動指針について
 - ・マンガ分野全体の情報整理及び今後の方針等協議

参加者：大石卓、イトウユウ、表智之、ヤマダトモコ、吉村和真
文化庁：吉光紗綾子、中西睦美、牛嶋興平
事務局：高橋知之、藤本真之介、佐原一江、蒲生みゆき

3.2.2 各部門実施会議内容

【マンガ原画アーカイブネットワーク会議】

第1回 令和3年7月29日（木）13：00～15：00 WEB会議（Zoomにて開催）

- ①今年度の取り組みについて
 - ・実施計画の確認（原画プール、各団体連携強化など）
- ②各参加団体からの近況報告
- ③「原画プール」設置について
 - ・原画プール実施計画についての説明
- ④「ゲンガノミカタ展」高知開催について
 - ・開催について情報共有
- ⑤第2回マンガ原画アーカイブネットワーク会議に向けての内容協議

参加者：大石卓、イトウユウ、表智之、倉持佳代子、永田裕一、日高優子、
ヤマダトモコ、吉村和真
文化庁：椎名ゆかり、吉光紗綾子、牛嶋興平
事務局：高橋知之、後藤流音、藤本真之介、佐原一江、岡野由喜

第2回 令和3年11月5日（金）13：00～15：00 WEB会議（Zoomにて開催）

- ①各参加団体からの近況報告
 - ・今年度各館の運営状況等について
- ②「ゲンガノミカタ展」実施報告
 - ・7月17日～8月31日 高知まんがBASEでの開催について

第3章 実施内容

③原画プール実施について

- ・原画プールについての現状報告
- ・石ノ森萬画館へのプール実施計画について

④ネットワーク会議についての協議

- ・来年度ネットワーク会議について
- ・ネットワーク会議の運営体制について

参加者：大石卓、イトウユウ、表智之、木村仁、倉持佳代子、永田裕一、日高優子、
ヤマダトモコ、吉村和真

文化庁：椎名ゆかり、吉光紗綾子、中西睦美、牛嶋興平

事務局：藤本真之介、佐原一江

【マンガ原画アーカイブマニュアル検討会議】

第1回 令和3年9月2日（木）13：00～15：00 横手市増田まんが美術館（2F：WS ルーム）

①今年度の取り組みについて

- ・今年度実施計画の確認
- ・旧マンガ原画アーカイブマニュアルの改定について
- ・アーカイブマニュアル動画の作成について
（新規動画撮影、前年度撮影動画の編集など）

②第2回 MGAC 運営協議会に向けての内容協議・日程調整

参加者：大石卓、池川佳宏、イトウユウ*、ヤマダトモコ、吉村和真*

文化庁：椎名ゆかり*、吉光紗綾子*、中西睦美*、牛嶋興平*

事務局：後藤流音*、藤本真之介*、岡野由喜*

*印付きは Zoom での会議参加

第2回 令和4年1月25日（火）10：00～12：00 WEB 会議（Zoom にて開催）

①マンガ原画アーカイブマニュアルの改訂について

- ・1月19日（水）集英社への取材についての報告（集英社マンガアートヘリテージ）
- ・今後の取材に関する情報共有

②マンガ原画アーカイブマニュアル動画の作成について

- ・動画の編集内容について協議
- ・動画の公開について

③今後のマニュアル部会についての情報共有並びに方針等の協議

第3章 実施内容

参加者：大石卓、池川佳宏、イトウユウ、ヤマダトモコ、吉村和真

文化庁：椎名ゆかり、吉光紗綾子、中西睦美、牛嶋興平

事務局：高橋知之、森由紀、藤本真之介、佐原一江、蒲生みゆき

【収益・支援体制構築会議】

第1回 令和3年6月18日（金）17：00～19：00 WEB会議（Zoomにて開催）

①今年度の取り組みについて

- ・実施計画の確認（原画プール、各団体連携強化など）

②各参加団体からの近況報告

③「原画プール」設置について

- ・原画プール実施計画についての説明

④「ゲンガノミカタ展」高知開催について

- ・開催について情報共有

参加者：大石卓、イトウユウ、表智之、吉村和真

文化庁：堀内威志、椎名ゆかり、吉光紗綾子、中西睦美、牛嶋興平

事務局：高橋知之、後藤流音、酒井淳一郎、井上和子、桜井陽子、藤本真之介、佐原一江

第2回 令和4年1月24日（月）19：00～21：00 WEB会議（Zoomにて開催）

①「ゲンガノミカタ展」高知開催についての事例紹介について

- ・1月25日（火）ネットワーク構築ミーティング（自治体連携会議）での発表について確認

②「ゲンガノミカタ展」追加コンテンツ及び追加執筆者の検討について

- ・追加執筆者の検討・依頼について
- ・図録、パンフレットの作成・販売について

③今後の収益事業についての情報共有並びに方針等の協議

参加者：大石卓、イトウユウ、表智之、

文化庁：椎名ゆかり、吉光紗綾子、中西睦美、牛嶋興平

事務局：末吉覚、西田武央、小野雅之、高橋知之、森由紀、岩川浩之、藤本真之介、佐原一江

付録

1. 「ゲンガノミカタ展」高知開催実施について

令和3年8月31日

「ゲンガノミカタ」展高知会場における準備工程について

一般財団法人横手市増田まんが美術財団

1. 概要

令和2年度令メディア芸術連携基盤等整備推進事業ネットワーク構築ミーティング（自治体連携会議）参加団体である高知県まんが王国土佐推進課より、「高知まんが BASE」開館一周記念展示として、令和元年度に横手市増田まんが美術館において開催した「ゲンガノミカタ」展を巡回展として開催したい旨の依頼があった。

本件は同企画展高知開催に向けての準備工程等について報告するものである。

■ゲンガノミカタ展とは

令和元年5月に横手市増田まんが美術館において開催されたリニューアルオープン特別展（2019年）の巡回展として企画された。同館がそれぞれ数万点の原画を所蔵する6人の「大規模収蔵」作家——小島剛夕、矢口高雄、高橋よしひろ、能條純一、土山しげる、東村アキコの貴重なマンガ原画約150点を紹介しながら、近年急速にその重要性が認知されつつあるマンガの〈原画〉を鑑賞するポイントを解説する展覧会。

2. 開催内容

○企画展名：「ゲンガノミカタ マンガ原画を100倍楽しむ法」展

○会 期：令和3年7月17日（土）～8月31日（日）

○会 場：高知まんが BASE（高知県高知市丸ノ内1丁目1番10号）

○料 金：無料

○主催など

主催：高知県

協力：横手市増田まんが美術館／（一財）横手市増田まんが美術財団／

マンガ原画アーカイブセンター（MGAC）／文化庁 令和3年度メディア芸術連携基盤等整備推進事業

監修：表智之（北九州市漫画ミュージアム）

付録

○展示内容

「まんが王国・土佐」として、マンガ文化の大切さ、楽しみ方などを発信してきた「高知まんがBASE」のオープン1周年を記念した展覧会。

1995年の開館当初よりマンガの生原稿＝〈原画〉の収蔵に力を入れてきた「横手市増田まんが美術館」（秋田県横手市）のリニューアルオープン特別展（2019年）の巡回展として企画。同館がそれぞれ数万点の原画を所蔵する6人の「大規模収蔵」作家――小島剛夕（ごうせき）、矢口高雄、高橋よしひろ、能條（のうじょう）純一、土山しげる、東村アキコの貴重なマンガ原画約40点を紹介しながら、近年急速にその重要性が認知されつつあるマンガの〈原画〉を鑑賞するポイントを解説する。

展示構成（マンガ原画の観方）

- 観方の1 原画と印刷、どう違う？
- 観方の2 マンガの「原稿用紙」とは？
- 観方の3 描線から感じるマンガ家の息吹
- 観方の4 原画の枠外には「マンガのゲンバ」がある
- 観方の5 手仕事が生み出す様々な効果
- 観方の6 スクリーントーンは「貼るだけ」じゃない！
- 観方の7 ホワイトでつけるアクセント
- 観方の8 この「切り貼り」は何のため？
- 観方の9 なぜか裏側にも絵が？
- 観方の10 うつろいゆく原画たち

○その他（出展作家プロフィール）

小島剛夕（こじま・ごうせき）

1928年、三重県生まれ。独学で画を学び、1950年には上京して紙芝居画家となる。58年、「かげろう殺法」（ひばり書房）で貸本マンガ家としてデビュー。「諏訪栄」という別名義も用いつつ、多くの貸本時代劇を手がけ人気を博す。70年から連載した「子連れ狼」（『週刊漫画アクション』）が大ヒットし、原作を手がけた小池一夫とで、その後も多くの傑作時代劇マンガを生み出した。2000年1月5日、71歳で死去。

矢口高雄（やぐち・たかお）

1939年横手市増田町生まれ。高校卒業後、地元銀行に勤務しつつ『月刊漫画ガロ』へ投稿を開始。69年「長持唄考」などが掲載され、銀行を退職し上京。「鮎」や「おとこ道」（原作・梶原一騎）を経て、73年「幻の怪蛇バチヘビ」「釣りキチ三平」が大ヒット。第5回講談社出版文化賞を受賞する。76年に「マタギ」で第5回日本漫画家協会賞大賞受賞。2009年、文部科学省「地域文化功労者」表彰。横手市増田まんが美術館の名誉館長と、石ノ森萬

付録

画館の館長を務めた。2020年、逝去。

高橋よしひろ（たかはし・よしひろ）

1953年、秋田県生まれ。本宮ひろ志のアシスタントを経て1971年「下町弁慶」でデビュー。1973年「おれのアルプス」が第5回手塚賞佳作に入選。1983年から『週刊少年ジャンプ』（集英社）にて「銀牙一流れ星銀一」を連載開始。同作は1986年に第32回小学館漫画賞を受賞。「銀牙シリーズ」は1999年から『週刊漫画ゴラク』（日本文芸社）にて再開し、銀の息子たちの物語「銀牙伝説 WEED」「銀牙伝説 WEED オリオン」「銀牙～THE LAST WARS～」が描き継がれた。

能條純一（のうじょう・じゅんいち）

1951年、東京都出身。71年、月刊誌『COM』（虫プロ商事）に「錯乱」で佳作1席入選。デビュー後は成年向け劇画を手がける。85年、麻雀打ちの“魔性の男”が主人公の「哭きの竜」を開始、大ヒットに。カリスマ的な男の美学を描く「翔丸」「ゴッドハンド」、浅草が舞台の叙情豊かな「悲しいぜっ」など多彩な作を発表。将棋界を描いた「月下の棋士」で、96年に小学館漫画賞受賞。短編集に「人生讃歌」、最新作に「昭和天皇物語」がある。

土山しげる（つちやま・しげる）

1950年、石川県出身。望月三起也（「ワイルド7」など）のアシスタントを経て、「ダラスの熱い日」で『月刊少年チャンピオン』（秋田書店）にてデビュー。その後、大人向けの劇画誌に活躍の場を移し、「極道ステーキ」（工藤かずや原作）などで人気を博す。1995年に『週刊漫画ゴラク』（日本文芸社）で連載開始された「喧嘩ラーメン」以降、「食キング」、「極道めし」などの〈食マンガ〉の傑作を次々と発表している。2007年、「喰いしん坊！」で、第36回日本漫画家協会賞優秀賞を受賞した。2018年、逝去。

東村アキコ（ひがしむら・あきこ）

1975年、宮崎県生まれ。1999年『ぶ～けデラックス』NEW YEARにて「フルーツこうもり」でデビュー。育児体験を描いた「ママはテンパリスト」（2006）が大ヒット。「海月姫」（2008）で第34回講談社漫画賞、「かくかくしかじか」（2012）でマンガ大賞2015、第19回文化庁メディア芸術祭大賞を受賞。「主に泣いてます」（2010）、「東京タラレバ娘」（2014）、「雪花の虎」（2015）、近年はWEB連載の「偽装不倫」（2017）など青年誌、女性誌を問わず様々な媒体で活躍中。

3. 展示準備について

(1) 横手市増田まんが美術館での準備等作業（～令和3年7月9日まで）

① 展示原画の選定

以下の通り展示構成（マンガ原画の観方）に適応した収蔵マンガ原画の選定を行った。

■観方の1 原画と印刷、どう違う？

→雑誌掲載時に潰れてしまう細かい描写や、塗りムラが残るベタ塗りが多いもの。

■観方の2 マンガの「原稿用紙」とは？

作家専用の原稿用紙の表記があるもの。
独自のサイズ、髪質への描写のあるもの。

■観方の3 描線から感じるマンガ家の息吹

描線の違い（太さ、ペン先の違いなど）がわかりやすいもの。

■観方の4 原画の枠外には「マンガのゲンバ」がある

小回りの外にアシスタント、印刷所などへの指示が書いてあるもの。

■観方の5 手仕事が生み出す様々な効果

集中線・網掛け・点描などの技法が施されているもの。

■観方の6 スクリーントーンは「貼るだけ」じゃない！

スクリーントーンによる作画の工夫が施されているもの。（削りなどの）

■観方の7 ホワイトでつけるアクセント

修正のためでなく、作画の一部としてホワイト修正液を使用しているもの
（水滴、星空など）

■観方の8 この「切り貼り」は何のため？

コマ割り、作画、修正のために原稿用紙の切り貼りを行っているもの

■観方の9 なぜか裏側にも絵が？

作画補助のため、原稿用紙の裏側に下書きなどが施されているもの。

付録

■観方の9 なぜか裏側にも絵が？

作画補助のため、原稿用紙の裏側に下書きなどが施されているもの。

■観方の10 うつろいゆく原画たち

劣化が進んでいるもの。(日焼け、のりによる劣化など)

②額装

- ・展示額については、大衣(393mm×508mm)、三三(454mm×605mm)の2種類のサイズを用意。
大衣=原稿用紙一枚展示用、三三=原稿用紙2枚または見開き原稿用
- ・額装用に各原稿用紙サイズに合わせた額装マットを用意
- ・盗難防止のため、額の裏には裏張り(盗難防止用テープ)を貼付。

③解説、展示用キャプションの作成

- ・京都精華大学のイトウユウ氏より解説いただいたキャプションを作成。
- ・各観方、作品解説等のキャプションはシールにて作成
(材質:マット紙、のり 厚さ:0.18mm)
- ・あいさつ文、導入解説文についてはスチレンボードにてパネルを作成。
(材質:発泡プラスチック、厚さ7mm)
- ・一部サイン(企画展タイトル等)については、会場壁施工会社へカッティングシートの作成を依頼。

④展示部材の準備

- ・額展示用のワイヤー、フック、使用工具等を準備

⑤梱包・発送

- ・使用原画、装飾品、工具等を梱包し高知まんがBASEへ発送。
- ・発送にはヤマトボックスチャーター株式会社の「JITBOXチャーター便」を使用
(輸送保険付き)
- ・高知へは7月14日(水)14時到着指定での発送。

付録

(2) 高知まんがBASEでの準備等作業並びに、関連事業
(7月13日(火)～7月17日(土)まで)

- ①7月13日(火) 10:00～17:00 展示壁設営
作業者:イトウユウ、株式会社ダイセン(施工会社)
作業内容:イトウ氏が設計した図面にあわせ、壁面を施工。

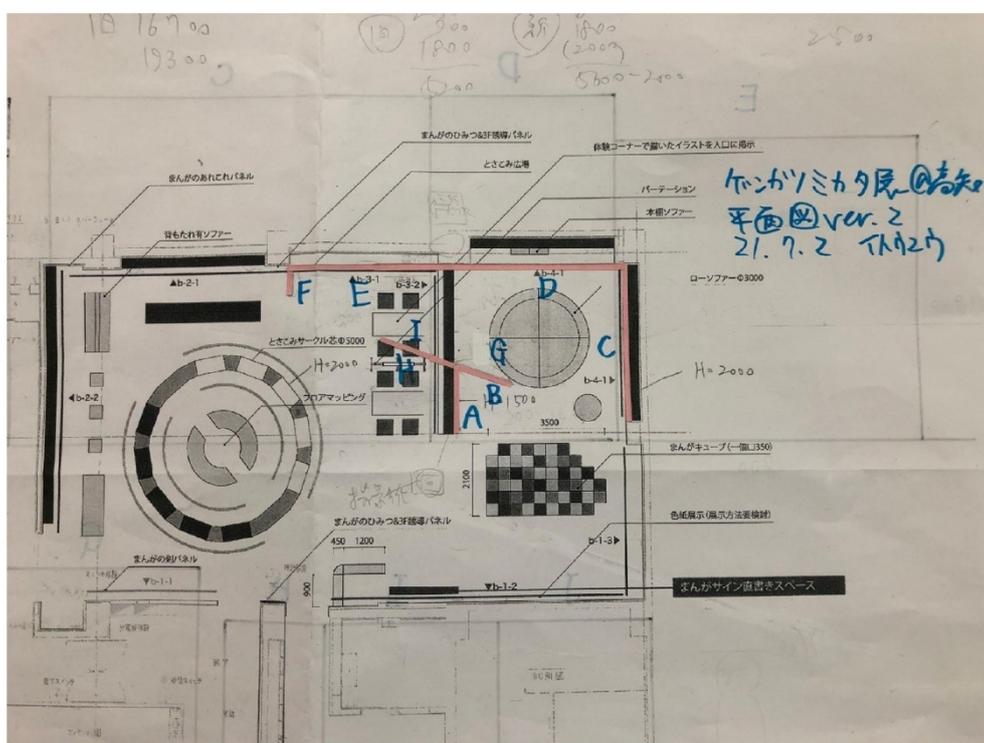


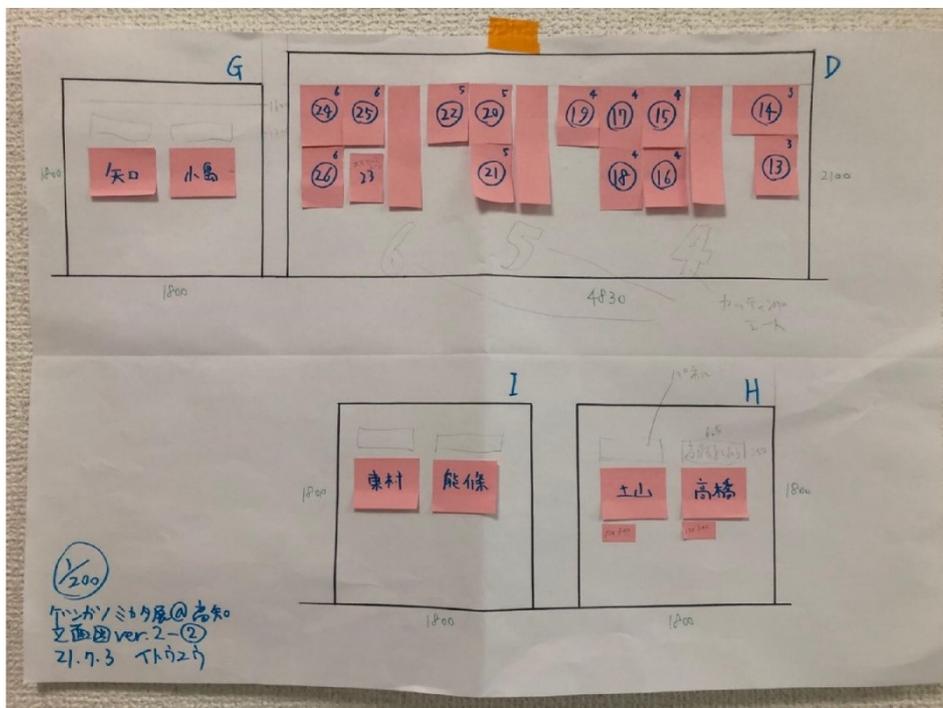
図:イトウ氏による壁設営の平面図

- ②7月14日(水) 9:00～19:00 展示物搬入・展示作業
作業者:イトウユウ、大石卓、安田一平
作業内容:原画や資材などを会場へ搬入作業
イトウ氏が設計した図面にあわせ、展示装飾作業

付録

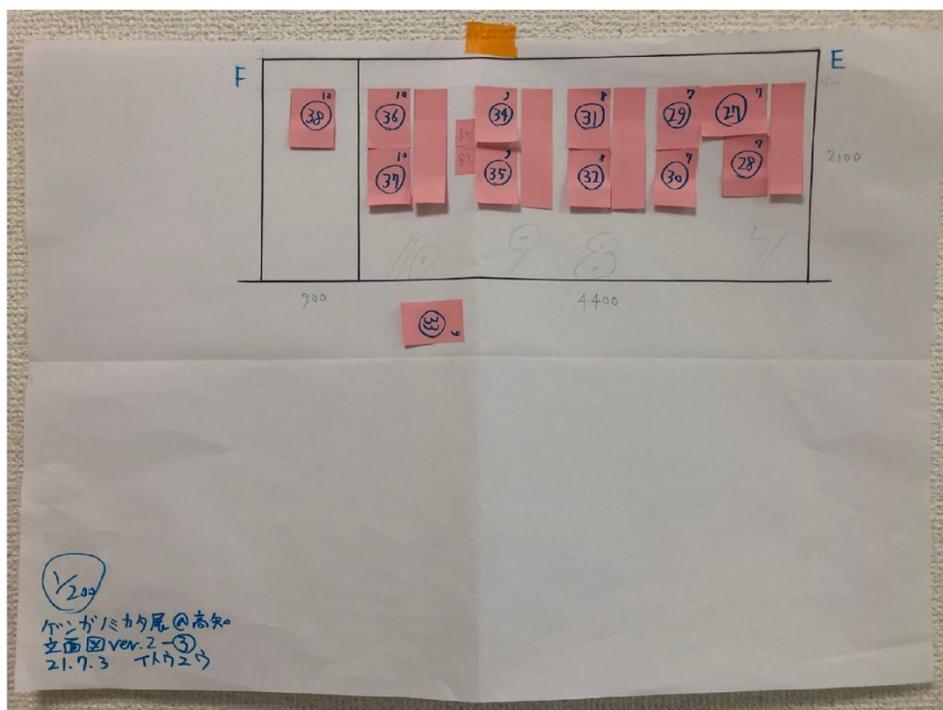


図：イトウ氏による展示装飾の立面図①



図：イトウ氏による展示装飾の立面図②

付録



図：イトウ氏による展示装飾の立面図③

③ 7月15日（木） 9：00～15：00 展示作業

作業 者：イトウユウ、大石卓、安田一平

作業内容：イトウ氏が設計した図面にあわせ、展示装飾作業

内覧会に向けての最終確認・調整

④ 7月16日（金） 13：00～15：00 メディア向け内覧会対応

参加 者：北九州市漫画ミュージアム：表智之

横手市増田まんが美術館：大石卓

内 容：各種広報メディアに向けた内覧会を実施。

当企画展監修者として、北九州市漫画ミュージアムの表智之氏、
開催協力者として、横手市増田まんが美術館館長の大石卓が挨拶を行っ
た。挨拶後は表氏が各種メディアに向けて、企画展概要や原画の観方につ
いての解説を行った。

付録



図：内覧会にてメディアへの挨拶の様子



図：内覧会にてメディアへ企画展の解説を行っている様子

付録

⑤7月17日（土）14：00～17：00

参加者：京都国際マンガミュージアム：吉村和真

合志マンガミュージアム：橋本博

北九州市漫画ミュージアム：表智之

横手市増田まんが美術館：大石卓

内容：当企画展開催に合わせ、上記メンバーによる来場者へのギャラリートーク（解説付閲覧会）を実施。



図：来場者へ解説を行う様子

（3）撤収作業について

作業日：8月31日（火）閉館後～9月1日（水）終日にかけて撤収作業を実施

作業者：イトウユウ、株式会社ダイセン（施工会社）

作業内容：原画の梱包・運搬手続き作業（JITボックスにてまんが美術館へ返送）
展示壁の撤去（株式会社ダイセン）

4. 報道・メディア掲載

■新聞

- ・ 7月25日（日） 高知新聞 掲載
- ・ 8月1日（日） 読売新聞（高知地方版） 掲載
- ・ 8月11日（水） 毎日新聞（高知地方版） 掲載

■テレビニュース

- ・ 8月13日（金） 高知さんさんテレビ／プライムこうち F 内にて放送
- ※ニュース動画

<https://news.yahoo.co.jp/articles/f0298f6ec913d916c26f80d4a8c1b9343ebaf25a>



図：テレビ放送の様子（高知さんさんテレビ放送）

5. 今回の展示作業について

今回の、「高知マンガ BASE」の展示に関しては、展示スペースの構築から展示作業至るまで、全ての作業を受託事業として財団が行ったケースとなった。そのため、人件費や旅費、資財費などの予算が多く必要となったが、今後の巡回に際しての必要経費算出のための指標として参考にしていきたい。また今回は、普段展示スペースとして使用しない場所で展示構築を行ったものであり、展示スペースの都合に合わせた展示方法や作品の選択についても参考としたい。

以上のことから、〈展示スペース〉、〈作業人員の確保〉、〈展示部材の有無〉など、各施設に合わせた展示パターンの考案や、必要経費の算出などを今後の巡回に向けて考えていきたい。

2. 原画アーカイブマニュアル動画作成のための取材報告書

原画アーカイブマニュアル作成のための取材 報告書

第1回：出版社への取材

取材先：岡本正史氏（おかもと・まさし/集英社デジタル事業部）

場所・日時：集英社神保町3丁目ビル 2022年1月19日 14:00-15:30

【目的】

『メディア芸術連携促進事業・連携共同事業 マンガ原画に関するアーカイブ（収集、整理・保存・利活用）および拠点形成の推進実施報告書』（学校法人 京都精華大学・2019年2月）掲載のマニュアルは、基本的に参加施設にとってのマニュアルであった。今後さらにマニュアルを作成していく場合、実際に原画を扱っている他の多くの方たちを考慮した内容として積み上げることが出来れば、原画を整理したいと考える多くの方が参照できる汎用性の高いものとなるだろう。

そのためには、原画を所蔵する出版社、作家、プロダクションなどが現在どのような整理管理をおこない、今後どのように保存管理をおこないたいのか、また、現在どのような問題を抱えているかなどをより具体的に知ってから積み上げた方がよい、という意見に基づきこの取材をすることとなった。

この取材は、現在そして今後原画を扱う施設にとって、所有者や、著作権管理を代行してきた方々の要望等を知り、施設の側がよりよい展望のもと管理をおこなっていくための基礎となることをも目指している。

【取材先について】

第1回目は、出版社・集英社への取材である。

集英社の岡本正史氏は、「マンガを、受け継がれていくべきアートに」というビジョンのもと、2021年3月1日にスタートした新事業「SHUEISHA MANGA-ART HERITAGE（集英社マンガアートヘリテージ）」（<https://mangaart.jp/>以下「SMAH」）プロジェクトの統括者である。

「SMAH」での原画整理は、文化庁におけるマンガ原画事業の積み重ねを参照し応用した例である。

岡本氏が参照した資料は以下とのこと。

- ・『メディア芸術連携促進事業・連携共同事業 マンガ原画に関するアーカイブ（収集、整理・保存・利活用）および拠点形成の推進実施報告書』（学校法人 京都精華大学・2019年2月）

付録

・『マンガ原画整理に関する報告書 三原順原画を中心に』（明治大学米澤嘉博記念図書館・2019年3月）など。

また、横手市増田まんが美術館の視察、マンガ原画アーカイブセンター（以下MGAC）のメンバーとのミーティングから多くの知見を得たとのことである。

【取材内容】

◆はじめに

岡本氏は、元々2007年にマンガ原画をアーカイブしデータベースを運用する「Comics Digital Archives」という社内システムを立ち上げた。このことがマンガアートの企画が生まれるきっかけになったとのこと。

それまではデータでの原画管理を主におこなっていたが、マンガをアートとして後世に伝えるための望ましいフォーマットを検討する中、手描き原画のある作品に関してはその整理に立ち返らざるを得ないことを実感した。それがMGACのメンバーへのヒアリングにつながった。

「SMAH」での原画アーカイブの最初の目的は、現在『少年ジャンプ』で連載中の尾田栄一郎「ONE PIECE」のアーカイブ化である。

◆アーカイブ資材

現在「SMAH」でのマンガ原画整理に使用している資材は以下である。

<B4本文原画用>

1. OPP袋 266 x 370mm（特注） =薬剤の塗布の無いもの
2. AFエンベロープ 角形O号B4
3. GasQ 特注断裁品 B4サイズ（257 x 364mm）
=間紙として使用。原画より発せられるガス等を吸着する
4. 組立式シェルボックス 297 x 392 x 100mm（特注）
=単行本1巻分の原画を立てて保管するのに適した仕様のもの
5. スペーサー 287 x 382 x 3mm
=4に原画を入れた後すきまがある場合おさえる資材
6. 中性ラベル A4
=原画と整理用OPP袋に貼る整理用シール

<見開きカラー原画用>

1. アーカイバルクリアホルダー（A3用）
2. 組立式シェルボックス 325 x 452 x 50mm
※すべて 株式会社 資料保存器材 より調達

付録

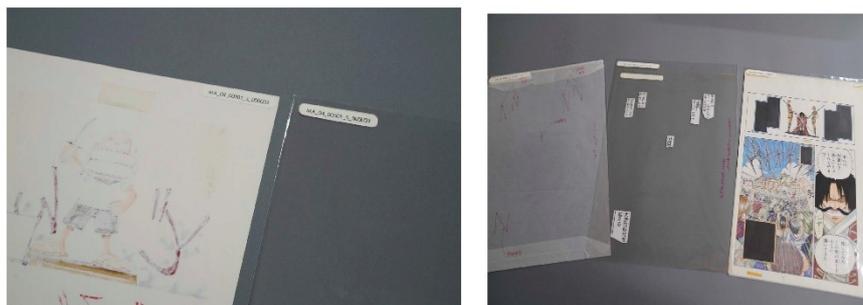
◆マンガ原画整理の様子 例（図版）

「SMAH」による「ONE PIECE」原画整理の様子を写真とともに多少紹介する。



整理の様子例 1 © 2022, Eiichiro Oda / Shueisha Inc. All rights reserved.

単行本を定本とし、見開きの原画の間に GasQ をはさみ同じ袋に入れる。
見開き単位で管理でき、間紙や OPP 袋での厚みのかさみを軽減できる。



整理の様子例 2 © 2022, Eiichiro Oda / Shueisha Inc. All rights reserved.

原画の裏、同原画に添付されており残しておく必要のあるトレーシングペーパー等、同原画整理用 OPP 袋に同じ番号の整理用シールを貼付

付録



整理の様子例3 「ONE PIECE」本文原画がアーカイバルボックス（組立式シェルボックス）に収まった状態

◆現状について

以下、現状について岡本氏よりお聞きした話を箇条書きで紹介する。

- ・現在「ONE PIECE」の単行本34巻まで整理が進んでいる。
- ・どの工程でも文化庁のマンガ原画に関する積み重ねを参照させていただいている。そのうえで、定本の原画を一枚の袋に見開き単位で入れ、見開きでの管理とかさの軽減、立置きでの管理など、さらに自分たちにとってよりよく整理し保存するための模索工夫をしている。
- ・整理フローも存在する。現在は、整理は一括で共同印刷に委託している。最初は新しい案件があるたびに質問が来ていたが、今はほとんど無くなった。あってはいけないことだが、原画が無かった時用の作業フローもある。

付録

◆今後のこと

・集英社は2010年ごろを境に、コミックスの制作フローがアナログからデジタルに切り替わった。そのため、単行本化の際の修正はデジタルデータによっておこなわれている。紙の原画に貼られた写植は、コミックス初版製版時のもののままで、重版時の訂正が反映されていない場合が多い（訂正は製版フィルム、もしくはデータのみで反映）。紙の原画からの再製版やデータ化をおこなう場合、これらの重版訂正内容の反映をどのようにおこない管理するかは課題。

・クラウド上でのマンガ原画のデータベースが必要ではないか。MGACのみならずも考えていると思うが。

・Q：「SMAH」は外から見ると、アートブロックチェーンを利用した、高精細プリント作品の製作販売事業。それ自体がよりよい状態でマンガを後世に残すことに貢献しており、今回の取材で、その事業がマンガ原画等のアーカイブ化を支え進めることにつながっていることもわかった。また、事業が海外の「GMUND AWARD2021 アート部門大賞」を受賞するなど評価されているのは存じあげているが、事業としては成功しているのか。

A：NFT(*)が話題になったことと併せて認知が拡大したことも追い風になり、どの先生の作品も購入されており事業は順当で成功している。今後の展開には、まだいろいろ試していかなければと考えている。特に整理した原画をどこでどのように管理保存していくかは、MGACみなさんとの共通の課題となり協力が必要となっていこう。

*NFT= Non-Fungible Token（非代替性トークン）

ブロックチェーンの仕組みを利用した暗号資産（仮想通貨）の一種。

ビットコインなどの仮想通貨が代替可能であるのに対し、個別の識別子を持ち、代替不可能という特性を持つ。デジタル作品と組み合わせた NFT アートや NFT ゲームなど、マーケットが世界的に急拡大している。

参考サイト

『週刊少年ジャンプ』の原画はアートになるのか。集英社・岡本正史が語る「マンガアート」事業のねらいとは？/聞き手・構成＝安原真広/WEB版「美術手帳」
<https://bijutsutecho.com/magazine/interview/23618>

以上

本報告書は、文化庁の委託業務として、大日本印刷株式会社が実施した令和3年度「メディア芸術連携基盤等整備推進事業 分野別強化事業」の成果をとりまとめたものであり、第三者による著作物が含まれています。
転載複製等に関する問い合わせは、文化庁にご連絡ください。